



## とやま、祭り彩時季【四】

稚児は神の依り代 写真・文／木原盛夫

## とやま、祭り彩時季【四】

稚児は神の依り代 写真・文／本原盛夫



## CONTENTS

- 稚児は神の依り代・・・・・・・・・・ 4 P
- ・法福寺の稚児舞・・・・・・・・・・ 5 P
- ・熊野神社の稚児舞・・・・・・・・・・ 1 4 P
- ・加茂神社の稚児舞・・・・・・・・・・ 2 4 P
- ・岩崎寺雄山神社の稚児舞・・・・・・・・ 3 5 P
- ・出町子供歌舞伎・・・・・・・・・・ 4 1 P
- 子供は祭りの主役・・・・・・・・・・ 4 7 P
- 富山と大伴家持・・・・・・・・・・ 5 5 P
- 富山に残る源氏と平家の物語
- ・義仲を讃える小矢部の祭り・・・・ 7 2 P
- ・平家の残した芸能が残る五箇山・・ 8 3 P
- 「ささら」考・・・・・・・・・・ 9 1 P
- 富山の俊寛伝説・・・・・・・・・・ 1 0 1 P
- 4つもある越中国一宮・・・・・・・・ 1 1 4 P
- ・伏木の氣多神社・・・・・・・・・・ 1 1 5 P
- ・高岡市の射水神社・・・・・・・・・・ 1 2 1 P
- ・南砺市の高瀬神社・・・・・・・・・・ 1 2 5 P
- ・立山町の雄山神社・・・・・・・・・・ 1 3 0 P

### ○稚児は神の依り代

「七歳までは神のうち」という言葉がある。幼子は穢れがなく純粹無垢で感受性が強く、神に近い存在と思われていたのだろう。そのため神霊が降臨し易いと考えられ、祭礼では神の依り代としての役割を担うこともある。

富山には越中の稚児舞と呼ばれる宇奈月町明日（あけび）にある法福寺の稚児舞、婦中町中名（なかのみょう）にある熊野神社の稚児舞、射水市にある加茂神社の稚児舞の3つと、立山町岩崎寺にある雄山神社の稚児舞の4つの稚児舞がある。

稚児舞は、白塗りの化粧をし煌びやかな装束を纏った男児が典雅に舞う芸能。五穀豊穡、悪魔払いなどを祈願して神前で舞われる。曲名に舞楽と共通のものもあるが、舞楽は宮廷芸術、稚児舞は舞楽の流れを汲んだ民間芸能という位置付けになっているようだ。

稚児舞に登場する男児はやはり神の依り代として扱われ、舞台に立つまで、舞台を下りた後もけっし

て土を踏まないように大人が肩に乗せて移動させる。

同じように高岡市出町の子供歌舞伎でも、役者は神の依り代として扱われ、神社でお載いを受けた後は大人が肩に乗せたり抱えて移動する。

### ・法福寺の稚児舞

富山に伝わる4つの稚児舞の中で一番早い時期に行なわれるのが、宇奈月町明日にある法福寺の稚児舞で、4月第3日曜日に開催される観音祭にて奉納される。

600巻ある大般若経を僧侶が分担して転読する大般若転読法要の後、4人の稚児が観音堂に勢揃いし、紋付袴姿の大人の肩に担がれて境内に設えられた舞台へと連れられていく。演目は「鉦の舞」「太平楽」「臨河楽」「萬才楽」「千秋楽」の5つ。およそ2時間ほどの舞台が終わると、また肩に担がれて観音堂に戻る。



6P上：法福寺と1592（文禄元年）に植えられたといわれるエドヒガン桜。

6P下：折り本を持ち上げてバラバラと速読する大般若転読法要。

7P：法要が終わると、稚児舞を演じる4人の稚児が観音堂に勢揃い。

8P上：観音堂から舞台まで肩に担がれて移動する。

8P下：境内に設えられた舞台。



8







9P上：鈴の舞／9P下：太平楽／10P上：臨河  
楽を終えて楽屋に戻る稚児／10P下：萬才楽／1  
1P上：千秋楽／11P下：舞台を終え、肩に担が  
れて観音堂へ帰る稚児。

12P：観音堂に戻り、僧侶に先導されて退室す  
る。

13P上：稚児舞の後は、火渡り法要。唱名と祈願  
が行なわれ、護摩壇に火が移される。

13P下：まだ煙りの上がっている炭の上を歩く。  
最初は僧侶から、次に信徒が続く。





## ・熊野神社の稚児舞

婦中町中名にある熊野神社の稚児舞は、毎年8月25日に開催される秋季例大祭に奉納される。

16時から式典が始まり、16時15分に公民館から神社へ向かって稚児行列がスタートする。嘗ては稚児を肩に乗せるのは伯父の役割だったそうだが、現在は父親が肩に担ぐ。

稚児舞奉納式典が営まれた後、17時から稚児舞の奉納が行なわれる。演目は「鉦の舞」「賀古の舞」「林歌の舞」「蛭子の舞」「小奈曾利の舞」「大奈曾利の舞」「陪臚の舞」の7つで、間に中名獅子舞、萩十獅子舞が入る。

1704年（宝永元年）に悪疫が流行し、神託を受けた婦負郡坪野村の村役人だった若林源佐衛門が私財を投じて祭りを挙行し稚児舞を奉納したのが始まりだとされている。

15P上下：熊野神社。舞台は釘を一本も使わない、嵌め込み式になっている。





16P上下：神社近くの公民館で化粧をし装束を身に纏い、稚児たちは神の依り代となる。

17P：神社までの道行きを始める前、公民館の中で獅子舞が奉納された。

18P上：稚児が肩に担がれて神社へ向かう道行き。

18P下：社殿での稚児舞奉納式典。

19P上：鉦の舞。

19P下：賀古の舞。





- 20P：林歌。
- 21P：蛭子の舞。
- 22P上：小奈曾利の舞。
- 22P下：大奈曾利の舞。
- 23P上下：陪臚の舞。





### ・加茂神社の稚児舞

射水市にある加茂神社で、9月4日に行なわれる秋季例大祭に奉納される。

道行きは、当番宿である野上宮司の家から出発する。稚児は長柄の傘をさし、5ヶ所ある御休み所で短い休憩をしながら12時30分から14時頃まで肩に担がれて巡行する。

14時から社殿で神事が斎行され、14時10分から稚児舞の奉納が始まる。演目は「鈴の舞」「林歌」「小奈曾利」「加古の舞」「天の舞」「胡蝶の舞」「大奈曾利」「蛭子の舞」「陪臚」の9つで、中入りを挟んで17時半過ぎまで行なわれる。

加茂神社の稚児舞は、京都加茂御祖神社（下鴨神社）から平安時代に伝承されたものだという。

25P上：野上宮司の家を出発する稚児。

25P下：短い休憩を挟んで1時間半ほど地区を巡行する。

26P：肩に担がれ参道を進む稚児。





27P：稚児が神社に到着すると、拝殿で神事が執り行われる。

28P上：鉦の舞。

28P下：林歌。

29P上：小奈曾利。

29P下：加古の舞。

30P：天の舞。

31P上：胡蝶の舞。

31P下：中入り・例祭式。

32P：大奈曾利。







30



T04-017





3 3 P上：蛭子の舞。

3 3 P下：陪臚。

3 4 P：奉納が終わり神の依り代から人へと戻り、草履を履く稚児たち。

#### ・岩崎寺雄山神社の稚児舞

現在は11月3日の秋季例大祭に奉納されているが、1981年（昭和56）以前は4月8日の春季例大祭に行なわれていたようだ。

神社傍の公民館で着付けをした稚児は、9時30分頃に行列の出発地点である町内の十字路へ。ここでおもむろに大人の肩に担がれて神社に向かう。

表神門と拝殿で神事が行なわれた後、また拝殿から肩に担がれて境内にある石舞台の方へ移動する。

稚児舞の演舞は11時からで、「鉦の舞」「扇の舞」「胡蝶の舞」という3つの稚児舞の間に、巫女神楽「浦安の舞」「立山の舞」が挟まれる。演舞は1時間弱で、奉納が終わると再び肩に担がれて石舞台から公民館へと戻って行く。

3 6 P上下：神社にほど近い村内の十字路で、唐突に肩に担がれて稚児行列はスタート。肩に担がれたまま、拝殿に入る。



37P：拝殿で神事に参加した後、再び肩に担がれて境内の石舞台へ移動する。

38P上：鉦の舞い。

38P下：浦安の舞。

39P上：扇の舞い。

39P下：立山の舞。

40P上：胡蝶の舞い。

40P下：演舞が終わると、稚児は肩に担がれて公民館へと戻って行く。

and more...